



COOL JAPAN FUND

クールジャパン機構のご案内

クールジャパン機構設立の背景 ①成長機会

日本では人口減少等により内需が減少、国内市場を対象とする企業にとっては厳しい市場環境

一方で、

自動車、家電・電子機器等の従来型産業に加えて、「衣」「食」「住」やコンテンツ（アニメ、ドラマ、音楽等）をはじめ、日本の文化やライフスタイルの分野には世界的に競争力のある商品・サービスが数多く存在している

（「日本の魅力」の存在）

また、

世界を見渡すと、新興国を中心に、飲食・ファッション・メディアなどの市場規模は、2009年の464兆円から、2020年には932兆円へと倍増すると予測されている*

（「成長市場」の存在）



「日本の魅力」を「成長市場」へ展開することによる、日本企業の成長機会は大きい

* A.T. Kearney作成「平成22年度 クール・ジャパン戦略推進事業（メディア・コンテンツ分野における戦略構築及び他分野への波及効果調査）」より

クールジャパン機構設立の背景 ②海外展開における課題

リスクマネーの不足

事業化まで時間がかかる、不確定要素が多い、現地でのファイナンス環境が整っていないなどの理由で、金融機関からの資金調達が困難

海外拠点の不足

事業の海外展開の足掛かりとする海外拠点が無い

戦略不足

海外事業展開に必要な情報やノウハウに乏しく、適切な戦略が描けない

といった理由から、魅力的な商品・サービスを持ちながらも、
海外展開に踏み出せない企業が多数存在

海外需要開拓支援機構(クールジャパン機構)の設立

日本文化の特色を生かした商品・サービスの海外需要開拓を行う事業に対し、資金供給、その他の支援等を行い、海外ビジネスの拡大による日本経済の持続的な成長に資することを目的とする

海外需要開拓支援機構法に基づく

クールジャパン機構の海外展開支援

“クールジャパン”事業の海外展開支援プラットフォーム

《 資金 》

支援先事業の成功を最優先としつつ
機構の収益性も確保できるよう
最適な形での資金支援

《 情報 》

政府・地方・民間事業者等
広範なネットワークを構築して
情報収集／発信



海外展開支援プラットフォーム

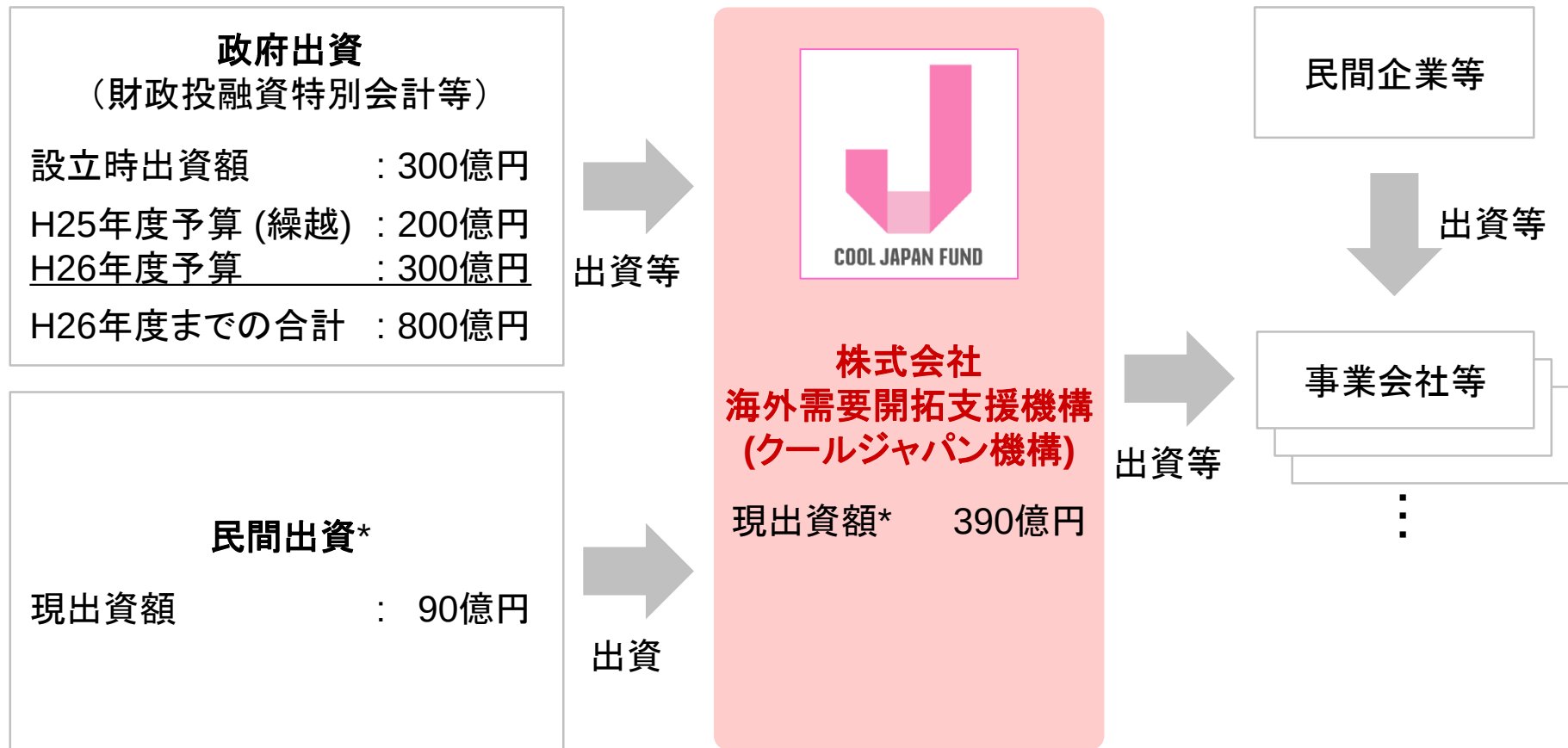
《 人材 》

業界専門家・プロ経営者等
多様な人材のネットワークを
構築

《 事業 》

事業成功の確率を高めるために、
個別企業の枠を超えた
複数企業の連携による事業展開を支援

クールジャパン機構のスキーム



* 上記金額は2014年10月31日現在

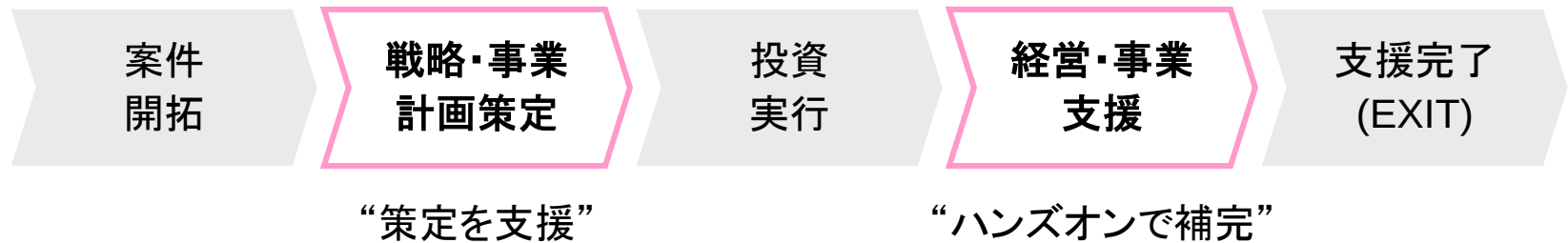
クールジャパン機構の投資基準

投資基準	基準概要
政策的意義	■ 日本の優れた商品・サービスの海外需要の開拓 ■ 海外における日本の魅力の向上に寄与 (ブランド化) ■ 地域経済など日本国内の経済成長への貢献
収益性等の確保	■ 健全な執行体制の確保 ■ 民間事業者等からの資金供給 ■ EXITの蓋然性
波及効果	下記を一つ以上満たすこと ■ 様々な企業・業種との連携 ■ 海外消費者に影響を与える発信力 ■ 海外市場開拓の先駆け ■ 中堅中小企業や個人事業者等の海外展開の足がかりとなる共同基盤の提供

投資の基本方針

項目	概要
案件あたり 投資金額	■ ポートフォリオ管理の観点から、全体のバランスを考慮し、案件ごとの投資額を判断
バリュエーション	■ 投資先の事業計画を慎重に精査し、DCF・マルチプルなど、汎用的な手法を使った公正な評価を実施
出資比率	■ 民業補完に徹することを踏まえ、機構からの出資は民間事業者との協調出資を条件とし、民業補完の観点から適切な出資比率
用いる 投資手法	■ 投資先の事業の成功のために最適な手法をとるものとし、普通株、転換社債、劣後ローンなど各種手法を活用
支援完了までの 期間	■ 対象事業が軌道に乗るまでの期間を基本とし、中長期となる場合においても支援
EXITの形態	■ 共同投資をするパートナー事業者主導による買取・償還やIPOなど案件毎の最適策を選択

投資案件開拓から支援完了までの流れ



投資実行前

- 業種・業態における海外展開ポテンシャルの見定め
- 支援候補先の海外展開における課題共有
- 支援候補先の戦略・事業計画策定の支援
(企業連携コンソーシアム等の、共同基盤設立計画策定支援等含む)

投資実行後

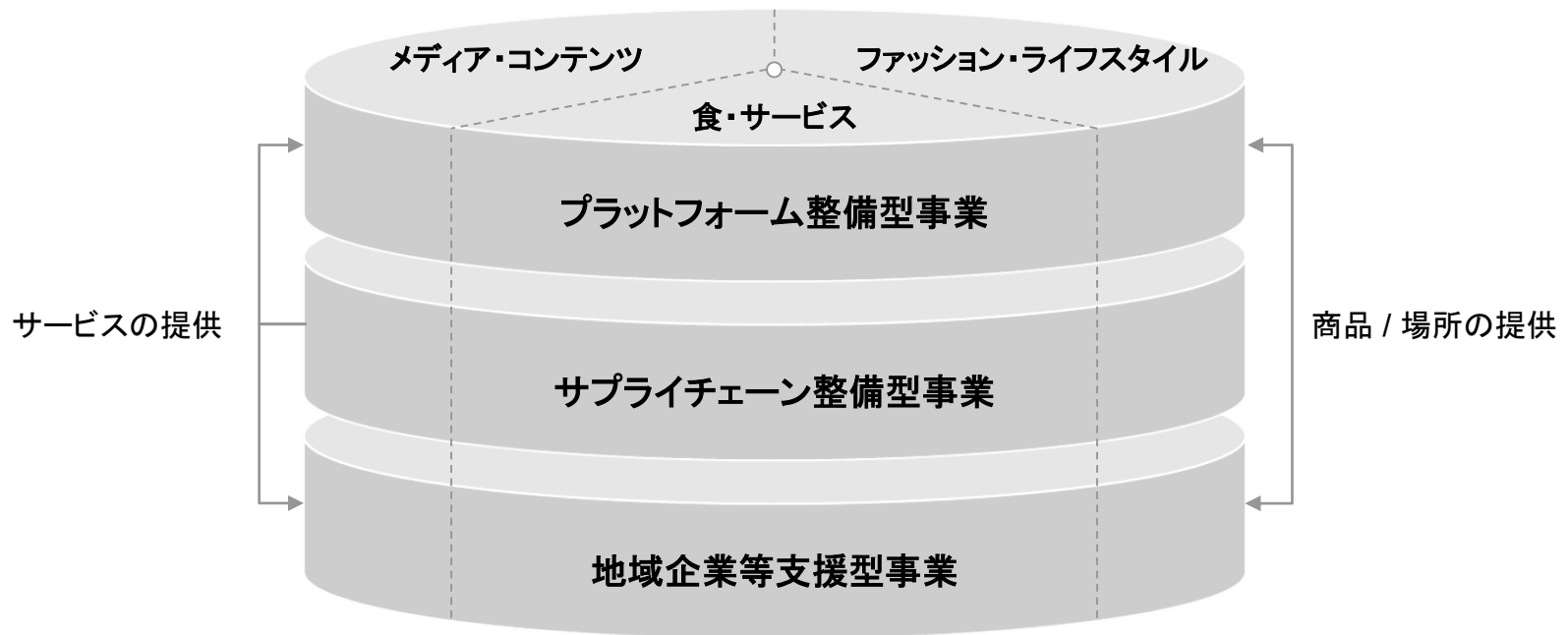
- 人材紹介を含めた経営・事業支援
- CJ機構のネットワークを生かした企業連携支援
- 役員派遣を含めたガバナンス支援
- 株主としての運営モニタリング

支援完了

- 事業が軌道に乗った時点での持分のEXIT

投資ポートフォリオの考え方

- ①メディア・コンテンツ、②ファッション・ライフスタイル、③食・サービスの3セグメントを切り口とし、海外市場で需要が見込まれる日本の魅力ある商品やサービスを幅広く捕捉
- 上記3セグメントに加え、「観光・インバウンド」「インターネット」「サプライチェーン」「インフラ」など切り口の違う全ての業種エリアに密接に関わる分野についても並行して検討
- 海外進出企業の各バリューチェーン上における課題を解決するためのプラットフォーム / サプライチェーンの整備、幅広い連携による地域企業や中小企業の海外展開支援を実施



投資対象となるプロジェクト例

物理的空間型の流通拠点

商業施設展開・活用(“ジャパン・モール”)



店舗集積(“ジャパン・ストリート”)



メディア・ネット空間型の流通拠点

日本のTV番組・アニメ等のコンテンツ

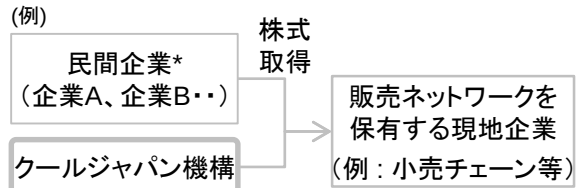


“地域クール・ジャパン企業”応援



M&A等の事業投資

海外企業のM&A等による物流網等の機能取得



* 例えば、アパレル、生活雑貨、食品、トイレタリー等が考えられる

→ 現地の販売ネットワークをM&Aにより取得し、クール・ジャパン商材を拡販する

食・グルメ(日本食)



会社概要 ① 基本情報

- 名称 株式会社海外需要開拓支援機構 - クールジャパン機構
(英語表記: Cool Japan Fund Inc.)
- 所在地 港区六本木6-10-1 六本木ヒルズ森タワー17F
- 設立 平成25年11月
- 出資金 390億円(平成26年10月31日現在)
- 株主

(株) アサツー ディ・ケイ	(株) 電通
ANAホールディングス (株)	凸版印刷 (株)
エイチ・ツー・オー リテイリング (株)	(株) 博報堂DYグループ
J.フロント リテイリング (株)	(株) パソナグループ
(株) 商工組合中央金庫	(株) バンダイナムコホールディングス
大日本印刷(株)	(株) みずほ銀行
太陽生命保険(株)	三井住友信託銀行 (株)
(株) 大和証券グループ本社	(株) 三越伊勢丹ホールディングス
(株) 高島屋	(株) LIXILグループ
	(以上民間株主、50音順)
日本政府	

会社概要 ② 役員メンバー

■ 経営陣

代表取締役会長
代表取締役社長
取締役 最高投資責任者
専務執行役員

飯島 一暢
太田 伸之
吉崎 浩一郎
小糸 正樹
森山 茂樹

■ 社外取締役

槍田 松瑩
川村 雄介
高須 武男
林 いづみ
村岡 隆史

三井物産(株)取締役会長
(株) 大和総研副理事長
元 (株) バンダイナムコホールディングス取締役会長
永代総合法律事務所パートナー / 弁護士
(株) 経営共創基盤パートナー
/ 取締役マネージングディレクター

■ 監査役

木下 俊男

日本公認会計士協会理事

■ 海外需要開拓委員会

委員長
委員

槍田 松瑩
川村 雄介
飯島 一暢
太田 伸之
高須 武男
林 いづみ
村岡 隆史

会社概要 ③ 役員プロフィール

■ 代表取締役会長 飯島 一暢

三菱商事 (株) にて鉄鋼業界を担当の後、宇宙通信出向を機にメディア業界に転向。その後、三菱商事 (株) メディア放送事業部長を経て、1997年に (株) フジテレビジョン (現： (株) フジ・メディア・ホールディングス) に転籍し、ジェイ・スカイ・ビー (株) (現： (株) スカパーJSATホールディングス) に出向。 (株) フジ・メディア・ホールディングス取締役経営企画局長、常務取締役などを歴任。2004年には (株) WOWOW社外取締役 (現任)、2007年に (株) スカパーJSATホールディングス社外取締役に就任 (現任) し、多チャンネル・ネット時代におけるメディア・コンテンツ事業において先導的役割を果たした。2012年、(株) サンケイビル代表取締役社長就任 (現任)。同年、グリー (株) 社外取締役就任 (現任)。2013年11月より現職。

早稲田大学教育学部卒

■ 代表取締役社長 太田 伸之

ニューヨークにおいてフリーランスジャーナリストを皮切りにバーニーズニューヨークコーディネーター等日米のファッション業界の橋渡し役として活躍した後、1985年に東京ファッションデザイナー協議会を設立し、東京コレクションを開始。(財) ファッション産業人材育成機構等でファッション人材育成に携わりながら、(株) 松屋営業本部顧問、(株) 東京生活研究所専務取締役所長を歴任。2000年から10年間 (株) イッセイミヤケ 代表取締役社長を務め、2011年には (株) 松屋常務執行役員MD戦略室長として、ファッション流通業界で活躍。2013年11月より現職。

明治大学経営学部卒

■ 取締役 最高投資責任者 吉崎 浩一郎

1990年代後半、日本のプライベート・エクイティの黎明期より国内独立系VC/PEファンドのシュローダー・ベンチャーズ (株)、(株) MKSパートナーズにてベンチャー投資、バイアウト投資、企業再生投資を幅広く実践。2005年よりカーライル・グループのアジア向け成長投資ファンドにて中堅企業、成長企業への投資を担当。2010年、(株) グロース・イニシアティブを設立し、成長性のある日本の中堅企業への投資及びアドバイザー活動を展開。VC/PE業界参画以前は、日本AT&T (株) にて通信サービスのスタートアップ、三菱信託銀行 (株) (現：三菱UFJ信託銀行 (株)) にて国際金融業務、法人融資業務を担当。2013年11月より現職。

青山学院大学国際政治経済学部卒。法政大学大学院社会科学部研究科修士課程修了



COOL JAPAN FUND

Cool Japan Fund Inc.
Roppongi Hills Mori Tower, 6-10-1 Minato-ku, Tokyo, Japan, 106-6117
Tel 03-6406-7500
HP <http://www.cj-fund.co.jp/>

クールジャパン機構 (株式会社海外需要開拓支援機構)
〒106-6117 東京都港区六本木6丁目10番1号六本木ヒルズ森タワー17階
電話 03-6406-7500
HP <http://www.cj-fund.co.jp/>